(C)佐賀新聞社　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します

CHEM佐賀

高校生、プレゼンきらり

高校生が日々の活動や成果などをプレゼンテーションする「CHEM（ケム）佐賀7」が2月中旬、佐賀市の佐賀大学本庄キャンパスであった。プレゼンテーション大会などで優秀な成績を収めた県内6校の高校生たちが、パワーポイントを活用して互いの活動を紹介。個性の光るプレゼンテーション技術を互いに学び合い、活動発表後のパネル討論では他校の生徒と交流を深め合った。各高校の発表やパネル討議の内容を紹介する。

いざんば！こんな高校生。

ウェブサイトに動画

CHEM佐賀　CHEMは「クリエイティブ・ハイスクール・エヴァンジェリスト・ミーティング」の略。佐賀大学などでつくる実行委員会が主催。高校生がプレゼンテーションや実演を通し、情報共有や互いの活動を活性化させる「化学反応（ケミストリー）」に期待する催しで、小中学生の進路決定のきっかけにしてもらうのも目的に開かれている。

有田工 デザイン科

インターホンシステム「Now A House」

【全国高等学校デザイン選手権大会・準優勝】

「ピンポーン、こんにちは宅配便です」「いいかげん昼間いないこと分かんないのかな」。宅配員役の生徒とエプロン姿の主婦役の生徒の寸劇で始まったプレゼンテーション。インターネット通販が普及している中、再配達の問題を解決しようと、タブレットとインターホンを活用したシステム「Now A House」を提案した。

宅配員へのインタビューや同校の生徒597人にアンケートを実施し、89%の家にインターホンがあることを受けてシステムを考案した。システムは家にいることを知らせることで再配達がなくなり、タブレットの機能で宅配員の仕事の負担を減らすことが目的。宅配員がタブレットから利用者に通知を送信し、同時に各家のインターホンに光と音で宅配員の出発を知らせる。宅配員の到着予定時刻などが分かるオリジナルアイコンも利用してもらう。

機械化が進む社会を見つめ、顔を合わせて会話することが減っていることも問題視し、宅配員と利用者が対面して「ありがとう」とコミュニケーションが取れるような仕組みを考えた。生徒たちは、「人と人とをつなぐ、心と心をつなぐ私たちの明るい未来へ」と呼び掛けた。

インターホンやタブレット端末を使った再配達の解決案を提案した有田工高の生徒ら

宅配員役と主婦役になりきって、再配達の問題や解決策を発表する有田工高の生徒ら

嬉野 社会福祉系列

介護技術コンテスト

左から、施設で披露している手話歌を実演する嬉野高の岡さん、山北さん、野田さん

【介護コンテスト九州大会４年連続最優秀賞】

手話で自己紹介をした生徒たちは、介護実習に３年間で53日間取り組み、特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどさまざまな施設で実習を行う。利用者に寄り添った介護を考え、技術を披露するコンテストでの体験を紹介した。

介護技術やコミュニケーション能力を発表する介護技術コンテストで、嬉野高校は県大会で７連覇、九州大会では４連覇を果たした。本年度の九州大会の課題は、「脳梗塞の後遺症で左上下肢麻痺がある80歳女性の介護」。お茶を飲みたい利用者をベッドから車いすに移乗し、上着を着せておやつがある談話室に誘導するという一連の流れが審査された。移乗の時に使うスライディングボードを、楽に安全にどう使うかがポイントで検討を繰り返したという。介護をする上で利用者の尊厳を保持できるかや、利用者に自己決定をしてもらうかなども考えて介護を組み立てる。そのほか、性格、価値観、家族関係などからさまざまな介護を考え、試行錯誤し練習を重ね、自分たちの介護を完成させた。

本年度の全国大会の結果は奨励賞だったが、生徒たちは「コンテストの取り組みを通して介護技術や利用者のアセスメント力に自信がついた」と笑顔で話した。

牛津 起業家入門Ⅰ履修者

Youkan for the Young

小城市内には20店舗以上ようかんの販売店があると紹介する、牛津高校の生徒たち

【高校生ＩＣＴ利活用プレゼンテーション大会団体の部・最優秀賞】

小城市の地域活性化をテーマに企画提案した生徒たちは、特産品のようかんに着目した。シュガーロードが通り、ようかん作りが盛んに行われた同市を「日本一のようかんの町」と紹介。ただ、若い世代はようかんの購入が少ないというデータがあることから、若い人に食べてもらい地域活性化につなげようとアレンジスイーツの開発に取り組んだ。

アレンジスイーツのターゲットは10～20代で、勉強や仕事の合間に手軽に食べられるスイーツを目指した。ヨーグルトやチーズケーキなど若い人に人気のあるスイーツと掛け合わせた結果、ようかんをクッキーで挟んだ「ようかんクッキー」を試作。試行錯誤を繰り返し、クリームチーズを挟んだ「ようかんチーズサンド」を完成させた。同市内の洋菓子店で試食してもらい、ようかんの種類を検討することやクッキーの生地を工夫するなどアドバイスをもらった。

今後は、「プロからのアドバイスを参考に試作を重ね、商品化に向けて取り組み、多くの人に知ってもらうようにより効果的な拡散方法を検討する」と生徒たち。「日本一のようかんの町としてＰＲし、消費量が上がれば生産者の雇用が増え、小城市の地域活性化につながる」と提案した。

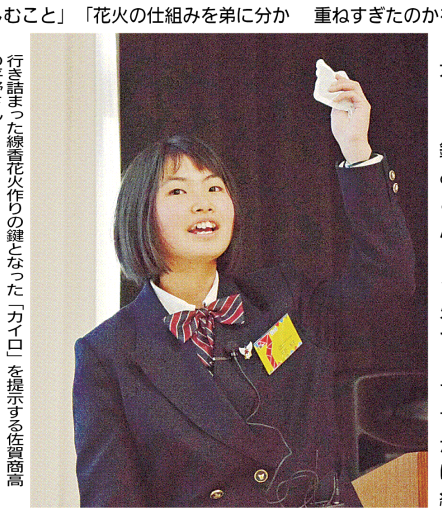
佐賀商 平野寛子さん

線香花火を作ってみよう!!

【高校生ＩＣＴ利活用プレゼンテーション大会個人の部・最優秀賞】

「花火大会で見た花火がきれいだったから」と夏休みの課題の自由研究で線香花火作りに挑戦した。打ち上げ花火は難しいが線香花火なら小学生の時に学んだ炎色反応の応用をいかして作れると思ったという。小学５年生の弟と一緒に作る上で、「花火づくりを楽しむこと」「花火の仕組みを弟に分かりやすく説明する」と二つの目標を立てて取り組んだ。

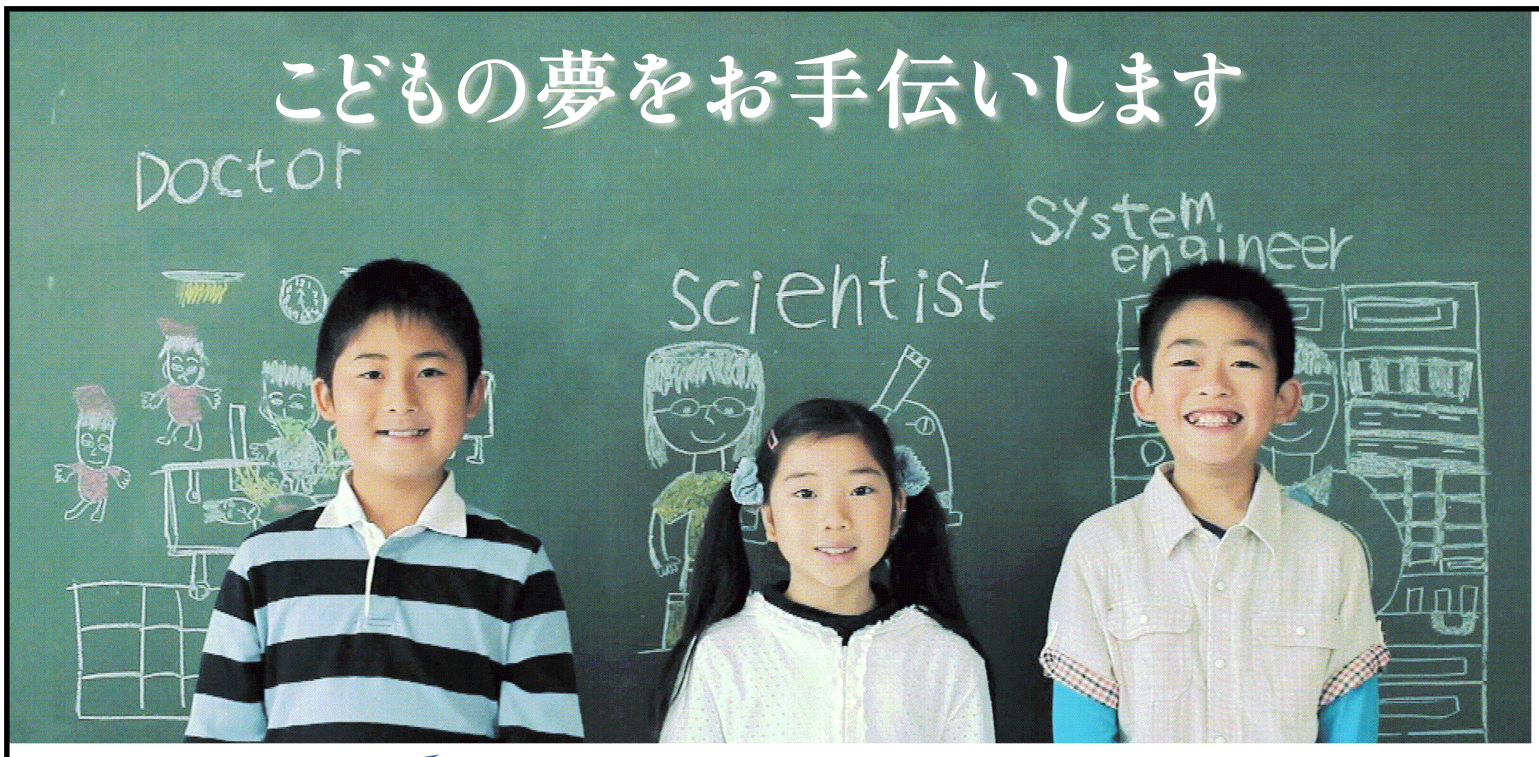
材料は鉄粉とティッシュ。家に鉄粉がなかったため鉄粉を集めるところから始めた。約３時間かけてスチール缶を削り集め、ティッシュ３枚に包んで火を付けたが「不発」。ティッシュが燃えただけのようだったという。鉄粉の量が少なかったのか、ティッシュを重ねすぎたのかを検証した。



行き詰まった線香花火作りの鍵となった「カイロ」を提示する佐賀商高の平野さん

続いて、鉄粉の量を大さじ半分にしてティッシュの枚数を１枚にして実験。問題はどう鉄粉を集めるか。夏休みの間ずっと鉄粉のことを考えていた平野さんが思いついた案は、「使い捨てカイロ」だった。試してみると花火らしさが出て成功につながった。

今回の研究を通して、「失敗を次にいかすことができた。これからもいろいろなことに挑戦したい」と目を細めた。



新時代を担う
子どもたちに
最適な教育環境を

教育ICTソリューション
教育現場の情報化に最適なハードウェア、ソフトウェア、これらを運用するためのソリューション全体の企画提案、導入、設定、保守等をトータルでご提供いたします。

教育機器ソリューション
学校で活用される各種教材や消耗品、プロジェクターなどの視聴覚機器、顕微鏡などの理化学機器、実験台や調理台、各種備品やプリンタなどのOA機器。これらの運用を含めたソリューションの提案から導入、メンテナンスまで、トータルでご提供いたします。

ICT利活用サポート
教育の情報化によって導入された、様々なハードウェアやソフトウェアなどの各種操作研修会の実施やインストラクターの派遣から、ICT支援員の配置、教育情報化コーディネーターの配置など、より良い利活用へつながるようにサポートいたします。

Gakuei System
株式会社 学映システム
ホームページアドレス http://www.gakuei.co.jp

■佐賀本店／佐賀市鍋島町大字森田902番地 TEL0952-34-5280／FAX0952-34-5285
■武雄支店／武雄市武雄町大字永島15877番地1 TEL0954-22-4124／FAX0954-22-4109
■唐津営業所／唐津市和多田用尺12番39号 TEL0955-70-2270／FAX0955-70-2277
■久留米営業所／久留米市東合川8丁目8番21 TEL0942-41-4315／FAX0942-41-4317
■福岡営業所／福岡市博多区千代2丁目1番15 TEL092-260-7664／FAX092-260-7665

ISO27001認証取得